

Title	平成2年度事業報告
Author(s)	
Citation	癌と人. 18 P.20-P.21
Issue Date	1991-03-31
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/23985
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

平成2年度事業報告

(財)大阪癌研究会

1. 一般学術研究助成について

本年度も癌に関する学術研究を奨励助成するため公募したところ全国から35名の応募者があった。

一般学術研究助成選衡委員会(委員長豊島久真男一大阪大学教授他4委員で構成)で慎重に検討され、理事会で決定された助成対象者は別紙のとおり12名であった。

2. 乳がん検診

乳がん集団検診では吹田、豊中、池田、箕面、茨木、摂津、大東、松原、藤井寺、羽曳野、門真、豊能、八尾、の13市町の住民の方々及び一部の市教職員について行い総受検者数11,638名、要精検者数306名でそのうち乳がんと判ったのは12名(平成3年12月末現在)であった。

3. 大腸がん検診

便潜血液反応検査による大腸がん集団検診については大阪商工会議所、大阪対がん協会、衛生婦人団体、社会福祉協会及び茨木、大東、河南、高石、摂津の5市町の方々及び個人の方々について行い総受検者数8,407名、要精検者数874名のうち、大腸がんと判ったのは8名(平成3年12月末現在)であった。

4. がんの知識普及活動について

「癌と人」の会誌17号を刊行し配布した。また「乳がんの自己診断のすすめ」及び「大腸がん検診のすすめ」等のパンフレットを発行した。

平成2年度「一般学術研究助成金」助成対象者

氏名	所属機関	研究テーマ
平井久丸	自治医科大学分子生物学講座	DNA診断法による超微量残存白血病の検出とその臨床応用
細川真澄男	北海道大学医学部癌研究施設病理部門	癌化学療法における内因性サイトカイン産性能の変動と治療効果
河野公俊	大分医科大学医学部	制癌剤によるヒト多剤性遺伝子MDRIの発現制御
稲葉宗夫	関西医科大学第1病理学教室	“G1期造血幹細胞”の分泌する細胞増殖抑制因子の精製と作用機序の解析
堀内孝彦	愛媛大学医学部第1内科	インターロイキン3によるヒト白血病細胞の分化・増殖に関する遺伝子の解析
岡田保典	金沢大学医療技術短期大学部	Matrix metalloproteinase-9 (92 KDa ゼラチナーゼ/IV型コラゲナーゼ)の性質と癌組織における局在
佐藤昇志	札幌医科大学病理学第1講座	細胞癌化に伴って発現する熱ショック蛋白(hsp)の癌免疫における意義の研究
門田重利	富山医科薬科大学和漢薬研究所	トポイソメラーゼII阻害活性を指標とする抗腫瘍性天然薬物の研究
野間隆文	山口大学医学部第2生化学講座	腫瘍増殖因子(TGF-β)受容体の発現調節機構の解析
金倉讓	大阪大学医学部第2内科	骨髄性白血病細胞の増殖機構に関する研究
菅原勇	埼玉医科大学総合医療センター病理部	逆転写→PCR法を用いた制癌剤耐性癌の検出方法に関する研究
藤田潤	京都大学医学部分子病診療学講座	Kit癌遺伝子による細胞癌化に関する研究

以上